

中津市民病院の病床増設を求める意見書

大分県北部と福岡県東部の一部を含む24万人医療圏の一般病床数は1,483床20病院であり、人口10万人あたりの病床数は、全国平均698.91床に対し、649.17床である。また地域内で300床以上の病院がなく、近隣地域で人口10万人あたりの病床数が最も少ない状況である。

中津市民病院は平成25年度以降、病床利用率が95～98%（死亡・退院含）となり、病床のやりくりが極めて厳しい状況にある。医療圏域住民への医療サービスの観点から、唯一の公的病院である当院の日常診療の円滑化をはかると共に常設の専門診療科を拡充し、一般的疾患に対する基本的・標準的治療の地域内完結を目指している。ところが現状では多くの患者が圏域外の医療機関への受診を余儀なくされている。

市民病院が24万人医療圏の中核病院に相応しい医療の質と規模を獲得するため、現在心臓・血管外科を開設し今後リウマチ膠原病内科を始め必要な診療科目の開設を目指すなかで、病床増設が必須条件であることから、市民病院に病床数増設が必要と考え強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成27年12月28日

大分県中津市議会